

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	のぞみ発達支援室きさらづ第二			
○保護者評価実施期間	2025年1月6日 ～ 2025年2月1日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数)	38
○従業者評価実施期間	2025年1月6日 ～ 2025年2月1日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・年2回NCプログラム発達チャートを取り、お子さんの発達状況や得意不得意なこと、今後の支援方法などをご家族と共有している。	・前期、後期各1回ずつ時期を空けてとることで定期的に成長を追うことができる。 ・集中できるよう個別で実施している。	・関係機関（園、行政）と共有することで、就学などの際に情報共有の手段の1つとして役立てられると良い。
2	・他園との併用など、各お子さんに合った利用頻度の設定が可能。 ・また、幼稚園や保育所併用児童に対して園や市と積極的に支援方法などの情報共有を行い、子どもたちが快適に集団生活を送れるような対応を心がけている。	・困り感や目指す進路などを伺い、同じ目標に向かうための対応方法をご家族と一緒に考えるよう意識している。	・ご家族を通して園などの集団生活の様子を積極的に聞き、困り感や悩みにできるだけ早く対応する。
3	・連絡帳や個別面談時以外にも、送迎時などにご家族からの相談を受けるなど、子どもたちを支援して下さるご家族の皆様のサポートにも力を入れている。	・年1回の個別面談以外にも希望に応じて面談を実施。 ・朝や帰りの送迎時に積極的にご家族に声をかけコミュニケーションをとる。	・ご家族の希望に応じて個別面談を行うことの継続。 ・連絡帳の継続。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・療育の専門家が少ない。	・全国的な離職率の高さや施設の立地 ・求人方法がハローワークのみである	・求人募集の方法を再考する。
2	・送迎サービスのなさ	・人手や車両がない	・送迎サービスを行わないとしたらまた異なる魅力的なサービス内容を検討する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 のぞみ発達支援室さくらづ第二

公表日 2025年 3月 28日

利用児童数 2025年 2月 1日

回収数 38

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	38					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	32	5		1	・ここ数年、職員数が減ったままの運営が続いており、先生方がきちんと休暇をとれているのか心配しています。	・職員の募集方法などを模索し、より良い体制でお子さんたちを受け入れられるよう考えていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	36	1		1	・朝のしたくが壁に沿って歩くと完了するように考えられており、とてもわかりやすいです。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	38					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	38					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	37	1				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	38				・本人に合った目標を立て、必ず毎回実施くださっています。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	37	1			・週1日ですが、利用日は他の日より活発になって帰ってきます。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	37	1			・苦手なことを少しずつ克服しています。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	37	1			・戸外活動ではいつも違うところに連れて行っていただくので、その日どこに行ったか、何をしたか連絡帳をみるのが楽しみです。 ・のぞみ牧場学園へのお出掛けや調理活動など様々な経験をさせていただいています。 ・色々な調理活動があり、楽しんで帰ってきます。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	15	7	2	14		
保護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	38					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	37			1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	28	4		6		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	37	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	35	1		2	・いつも助言が的確です。 ・とても丁寧にアドバイスしていただきました。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	38				・皆さんで見守ってくださる安心感があります。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	21	7		10	・クリスマス会で、家族で参加させていただき、きょうだいも楽しんでいました。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	38					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	38					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	30	5	1	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	37	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	32	3		3	・見たことがないのでわかりません。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	31	1		7	・見たことがないのでわかりません。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	32	1		5		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	34			4	・そのような状況になったことがないので、わかりません。 ・怪我をしたことはありませんが、いつも様子をわかりやすく伝えてくださっています。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	38					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	37	1			・とても楽しく通っています。 ・安心して通える場所です。毎回楽しみにしています。 ・とても楽しみで、あと何回寝たらと数えています。 ・子どもはのぞみさん大好きです！	
	29	事業所の支援に満足していますか。	38				・大満足です！ ・子どもにあった支援をいただき、とても満足しています。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年3月28日				
のぞみ発達支援室さくらづ第二						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1		・ 園庭がもう少し危なくない方が良いと思います。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		4		・ 専門の先生（心理言語や療育の先生）がいると良い。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	1		・ 個々では都度できていると思うが、全体で行う機会は少ない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		・ 法人内研修がある ・ 市や県が紹介している研修情報は共有している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2	2		・ 今年度内に作成、公表します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		・ 児童記録を毎日つけている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1	・気を付けること、気になったことをその度、教えてもらっています。	・必ず、はできていないが、気付いた点は共有し、記録に残している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		・ 機会は少ないが、行う際には適任者が参加できていると思う。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4			・ 報告書やNCプログラムの共有
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4			
	28	(28～30は、センターのみ回答)	2			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2			
	31	(31は、事業所のみ回答)	4		・ 月1回会議の実施	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4			・ 機会は少ないが実施している。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		・ 廊下の掲示物を不定期で更新 ・ 法人内の講習会の案内を配布したり、外部の講演会などの案内があれば掲示している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		4		・夏のお楽しみ会、クリスマス会はあるが、家族間の交流は薄い。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4			・更新頻度を高められたら良い。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1		・地震、火事のみ。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	1		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4			